

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

テストで間違えた問題を、あなたはどのようにしているだろうか。赤ペンで正しい答えを書き写し、それで終わりにしている人が多いかもしれない。しかし、それでは同じ間違いをまたくり返しやすい。人は失敗をすると、早く忘れたいと思う。恥ずかしいし、思い出すと気分が悪くなるからだ。けれども、忘れてしまった失敗からは何も学べない。だから私は、失敗を一冊のノートに書き残すことをすめたい。名づけるなら、「失敗ノート」である。

書き方には、こつがある。まず、何を間違えたかだけでなく、なぜ間違えたかを書く。「計算ミス」と書くだけでは足りない。「急いで、繰り上がりを書かなかった」のように、そのときの自分の行動まで書く。原因が行動の言葉で書かれていれば、次にどうすればよいかが自然に見えてくる。

次に、自分を責める言葉は書かない。「なんてだめなんだ」と書いても、次の行動は何も変わらない。ノートに残すのは、反省ではなく記録である。事実だけを、ほかの人の失敗を調べるように、少し離れた目で書くときよい。

こうして書きためていくと、やがて気づくことがある。失敗の原因は、思っていたほど多くの種類がないのだ。同じ急ぎ方、同じ思いこみが、形を変えて何度も顔を出している。それが分かれば、気をつける場所は数か所にしぼられる。

失敗は、うまくいかなかったという結果であると同時に、自分の弱点を教えてくれる地図でもある。その地図を持っている人は、次に同じ道で迷わない。失敗ノートは、自分だけの地図帳なのである。

(この問題のための書き下ろし)

問一 筆者は、赤ペンで正しい答えを書き写すだけで終わりにすると、どうなると述べていますか。本文中から二十字以内で抜き出さない。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二 「原因が行動の言葉で書かれていれば」とありますが、「行動の言葉」で原因を書いた例として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

- ア 計算ミスをした。
イ 自分は数学が苦手だ。
ウ 問題文を最後まで読まずに答えを書いた。
エ 今日は調子が悪かった。

--

問三 筆者は、失敗ノートに残すのは何だと述べていますか。「反省ではなく」に続く言葉を、本文中から二字で抜き出さない。

--	--

問四 「気をつける場所は数か所にしぼられる」とありますが、それはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問五 筆者が失敗を「地図」にたとえた理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

- ア 失敗の数がいほど、地図のように大きくなるから。
イ 失敗は自分の弱点を教えてくれ、次に同じところで迷わないようにしてくれるから。
ウ 地図のように、ほかの人と見せ合うことができるから。
エ 失敗した場所を覚えておけば、そこに近づかなくてすむから。

--